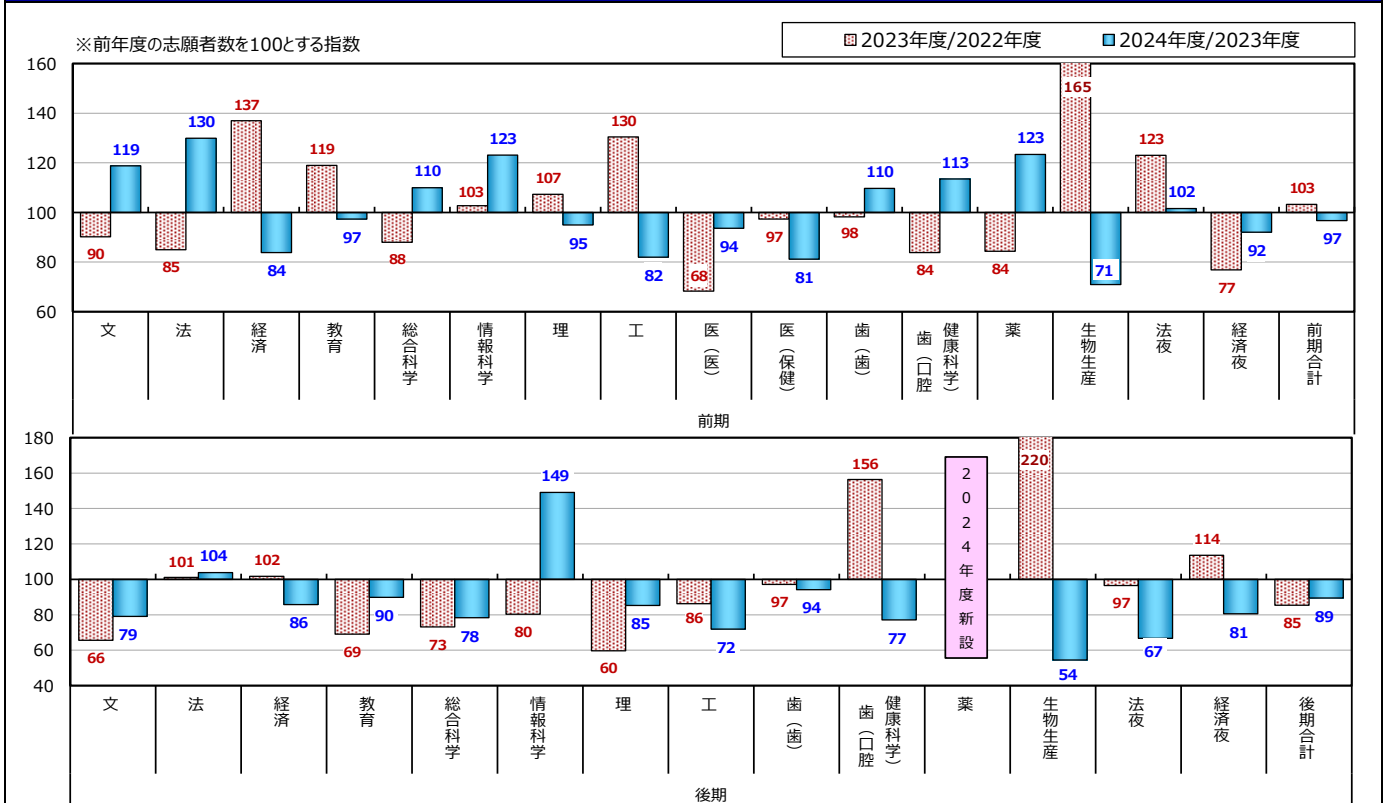


広島大：前期はやや減少、後期は2年連続減少

前期：-136人 後期：-255人



**主な入試変更点** 選抜方法：薬(薬科学)…2015年度に廃止した後期を復活(募集人員3人)  
 募集人員：総合科学(総合科学)…<前>90人→84人  
 個別試験：総合科学(国際共創/理科系)<前>…理2⇒数、配点変更  
 理2<400>+外<800>=総点<1,200> ※理：(物 or 化 or 生 or 地学→2  
 →数<600>+外<600>=総点<1,200>

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は136人(97)のやや減少。学部・学科別では、法(130)、情報科学(123)、薬(123)、文(119)が大幅増加。一方で、生物生産(71)、医(保健)(81)、工(82)、経済(84)が大幅減少。後期は255人(89)の2年連続減少。後期復活の(薬科学)を除くと373人(85)で2年連続大幅減少。学部・学科別では、情報科学(149)が大幅増加。一方で、生物生産(54)、工(72)、歯(口腔健康科学)(77)、総合科学(78)、文(79)が大幅減少。なお、法夜、経済夜を除いても、前期は132人(97)のやや減少、後期は214人(91)の減少で大学全体動向とほぼ同じ。

**<前期日程>**

- 文(119)**は、2年連続減少の反動とコロナ禍の影響緩和で大幅増加。志願者数は2021年度と同数。志願倍率は1.8倍→2.2倍にアップ。
- 法(130)**は、前年度大幅減少の反動と広島市中区の東千田キャンパスへの移転効果で大幅増加。志願倍率も2.1倍→2.7倍にアップ。
- 経済(84)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も2.5倍→2.1倍にダウン。
- 教育(97)**は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。コース別では、15コース中8コースで減少。(造形芸術系)(40)は前年度大幅増加の反動で激減、志願者数は募集人員を下回った。(国語文化系)(49)は前年度激増の反動で大幅減少、志願倍率は2.8倍→1.4倍にダウン。(教育学系)(67)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(自然系)(68)は2年連続増加の反動で大幅減少。(数理系)(81)は2年連続増加の反動で大幅減少、志願倍率も6年ぶりに1倍台にダウン。(特別支援教育教員養成)(82)は前年度倍以上の反動で大幅減少。(技術・情報系)(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(健康スポーツ系)(170)は前年度減少の反動で激増、(日本語教育系)(159)は大幅増加で3年連続増加、(英語文化系)(126)は前年度減少の反動で大幅増加。
- 総合科学(110)**は、4年連続減少の反動で増加。学科別では、4学科中3学科が増加。(国際共創)(133)は前年度大幅減少の反動と(理科系)での個別試験の科目・配点変更で大幅増加、(総合科学)(104)は4年連続減少の反動は小さくやや増加だが、募集人員の6人(7%)減少により、志願倍率は2.0倍→2.2倍にアップ。
- 情報科学(123)**は、大幅増加で2年連続増加。志願者数は2018年度の新設以降で最多。志願倍率は2.1倍→2.5倍にアップ。
- 理(95)**は、前年度やや増加の反動でやや減少。学科別では5学科中3学科が減少、(数)(70)は大幅減少で3年連続減少、(生物科学)(76)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(化)(122)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(物理)(117)は大幅増加で、志願者数は4年ぶりに80人を上回った。
- 工(82)**は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集単位別では、6募集単位中3募集単位が減少。入学時に4つの類に所属せずに、1年次前期終了時点で成績と希望によって各類に配属される(工学特別)(31)は前年度3倍以上の反動で減少率ほぼ7割の激減、2020年度以降は激減と激増の繰り返しが続く。類別募集では、(第二類)(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。一方で、(第四類)(120)は前年度減少の反動で大幅増加。
- 医(医)(94)**は、前年度大幅減少に引き続き、やや減少で2年連続減少。募集人員が90人になった2019年度以降で初めて志願者

数が 400 人を下回った。

- 医(保健)(81)**は、大幅減少で 2 年連続減少。専攻別では、(保健／理学療法学)(69)、(保健／看護学)(74)はいずれも 2 年連続増加の反動で大幅減少。一方で、(保健／作業療法学)(114)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 歯(歯)(110)**は、増加。志願倍率は 3.4 倍→3.8 倍にアップ。
- 歯(口腔健康科学)(113)**は、2 年連続減少の反動で増加。専攻別では、(口腔健康科学／口腔工学)(127)は大幅増加、志願倍率は 1.8 倍→2.3 倍にアップ。(口腔健康科学／口腔保健学)(103)は 2 年連続大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 薬(123)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(薬科学)(174)は前年度減少の反動で大幅増加。志願者数は 7 年ぶりに 60 人を上回った。(薬)(109)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 生物生産(71)**は、前年度激増の反動で大幅減少。志願倍率も 2.4 倍→1.7 倍にダウン。

#### <後期日程>

- 文(79)**は、2 年連続大幅減少。志願倍率も 7.2 倍→5.7 倍にダウン。
- 法(104)**は、やや増加で 3 年連続増加。志願倍率も 11.4 倍→11.8 倍にアップ。
- 経済(86)**は、2 年連続増加の反動で減少。募集単位別では、いずれの募集単位も個別試験は小論文で、事実上合否は共通テストの成績で決まるが、(文科系)(104)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(理科系)(39)は前年度 8 倍以上の反動で激減。2020 年度以降、激増と激減の繰り返しが継続。
- 教育(90)**は、3 年連続減少。ただし、2023 年度から募集人員が 55 人→31 人に減少したので、志願倍率は 8.0 倍で、連続減少前の 2021 年度の 7.4 倍を上回った。コース別では、募集人員が 2 人から 5 人と少ないことから大幅な増減率になりやすく、9 コース中減少した 5 コースは全て大幅減少。(技術・情報系)(30)は前年度大幅増加の反動で激減。(造形芸術系)(50)は半減で 2 年連続減少。(人間生活系)(58)も前年度激増の反動で大幅減少。(教育学系)(63)は 3 年連続増加の反動で大幅減少。(数理系)(72)は前年度 3 倍増の反動で大幅減少。一方で、増加した 4 コースでは、(心理学系)(105)を除く 3 コースが大幅増加。(健康スポーツ系)(165)は前年度大幅減少の反動で激増。(自然系)(135)は 2 年連続大幅増加。(社会系)(119)は 3 年連続大幅増加。
- 総合科学(78)**は、2 年連続大幅減少。志願者数が 140 人を下回ったのは、6 年ぶり。志願倍率も 9.2 倍→7.2 倍にダウン。
- 情報科学(149)**は、前年度募集人員が増加したにもかかわらず大幅減少だった反動で大幅増加。志願倍率も 5.3 倍→7.9 倍にアップしたが、募集人員増加以前の 10 倍は超えなかった。
- 理(85)**は、2 年連続大幅減少。志願者数は、募集人員が 48 人になった 2012 年度以降で最少。学科別では、4 学科中 3 学科が減少。(物理)(78)は 2 年連続大幅減少で、志願倍率は 6.9 倍→5.4 倍にダウン。(化)(82)は 2 年連続大幅減少で、志願倍率は 5.0 倍→4.1 倍にダウン。一方で、(地球惑星システム)(107)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。
- 工(72)**は、大幅減少で 2 年連続減少。類別では 4 類全て減少。(第二類)(45)は 2 年連続大幅減少で、志願者数は 40 人を下回った。(第四類)(74)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少。(第一類)(77)は 2 年連続大幅減少、(第三類)(93)はやや減少で 4 年ぶりに減少。
- 歯(歯)(94)**は、2 年連続やや減少。
- 歯(口腔健康科学)(77)**は、(口腔健康科学／口腔工学)のみの募集。前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 後期復活の**薬**は、(薬科学)のみの募集。募集人員 3 人、志願者数 118 人で、志願倍率は 39.3 倍。前回の後期最後だった 2014 年度の志願倍率 9.8 倍から大幅アップ。
- 生物生産(54)**は、個別試験は面接のみで、事実上合否は共通テストの成績で決まる。2 年連続激増の反動で大幅減少。志願倍率も 17.8 倍→9.7 倍にダウン。